

- R6能登半島地震における給水支援として、(独)水資源機構が保有する可搬式浄水装置2台を投入。
- 地震により浄水能力が失われた石川県珠洲市において、郊外にある亀ヶ谷(かめんた)池で給水支援。
- 1月9日(火)から生活用水、12日(金)からは飲用水を提供中。
- 水資源機構の職員が3名常駐し、現地に設置された災害対策車(注1)に寝泊まりしながら給水活動(8:00~18:00)を支援。

## 【可搬式浄水装置の特徴・効果】

- ・ 海や河川から取水して浄水することが可能であり、飲料水としても利用可能。処理能力は、1台50m<sup>3</sup>/日。
  - ・ ほとんどの給水車が金沢市と7時間以上(注2)かけて往復しているところ、珠洲市役所まで約20分に短縮される。大型給水車 約15台分/日(注3)の往復を解消。
- (注1) 関東地方整備局所有の災害対策車。(注2) 深夜早朝の場合(1/9時点)の所要時間。(注3) 稼働率を75%、給水車の容量約5000lと仮定。

## 【現地の声】

- 被災地域で水が必要となる中で、安定的な給水支援を行って頂き大変助かる。(珠洲市)
- 給水ポイントが近くにできたことや安定的に給水して頂けるので大変助かる。(名古屋市上下水道局)
- 入浴施設に水を給水しているが、入浴施設の利用者から感謝の言葉を頂いている。(自衛隊)

